

マラソン

皆さん、こんにちは！国際交流員のスティーブン・キャーネルです。今日は第一回オリンピック競技大会から行われている種目、マラソンを紹介したいと思います。マラソンの歴史、強い競技者、それから来年のオリンピックマラソンの見どころをみてみましょう。

マラソンは陸上競技の長距離走の種目の一つです。42.195 kmの距離の公道コースで行われます。スタートからゴールまで、標高差が42 m以下でなければなりません。不正スタートを2回以上した競技者は失格とされます。もちろんショートカット等の不正も失格となります。

マラソンは陸上競技の種目として第一回オリンピック競技大会から始まりました。その時は40 kmの距離でした。42.195 kmに指定されたのは1924年でした。女子マラソンは1984年から行われています。その最初の女子マラソンでジョーン・ベノイト選手が2時間24分52秒でオリンピック記録を樹立しました。現在の女子マラソンオリンピック記録は2時間23分7秒です。ポーラ・ラドクリフ選手が樹立した女子マラソン世界記録は現在2時間15分25秒です。

今回のオリンピックのコースは東京の代表的な観光地が中心です。例えば、マラソン中、競技者は皇居、東京タワー、東京駅、歌舞伎座、それから浅草とスカイツリーを眺めながら走ります。東京2020大会では、スタート地点とゴール地点は同じなので、標高差の規定を満たします。コースの標高は最高約35 m、最低約5 mです。夏の暑さに対し、給水ポイントがコース5 kmごとに設置されます。日本の夏の暑さが心配なので、マラソンはまだ暑くならない5時半に始まる予定です。

豊橋出身の鈴木亜由子選手もオリンピックマラソン出場を目指しています。現在27歳の鈴木選手は長距離走の5,000 mと10,000 m種目でオリンピック出場の実績がありますが、今回はマラソンの出場を狙っています。鈴木選手は北海道マラソン2018で優勝し、9月に行われるMGC（マラソングランドチャンピ



オンシップ) への出場権を手に入れました。日本代表選考基準に従い、MGCで優勝、または2位以内に入ると、オリンピック出場決定となります。もしそこで出場決定を逃しても、MGCファイナルチャレンジというチャンスもあります。ファイナルチャレンジは大会が3回あり、出場選考のため、記録が設定されています。男女1人ずつに、その設定記録を満たす最上位の競技者にオリンピックへの出場権が与えられます。ファイナルチャレンジの女子設定記録は2時間22分22秒に決まっています。

実は東京2020大会から、マラソンの出場資格が厳しくなります。例えば、女子マラソンの参加標準記録は15分も短くなっています。2016オリンピックでは2時間45分でしたが、東京2020大会は2時間29分30秒になります。出場枠の半分ぐらいは標準記録を満たす競技者に与えられ、残りの半分は世界ランキングに従い割り当てられます。それに参加者数は2016年の157人から80人に減らされています。

新しい出場資格、新しい競技者、たった80人の枠、東京2020大会のマラソンは間違いなく激戦になります。